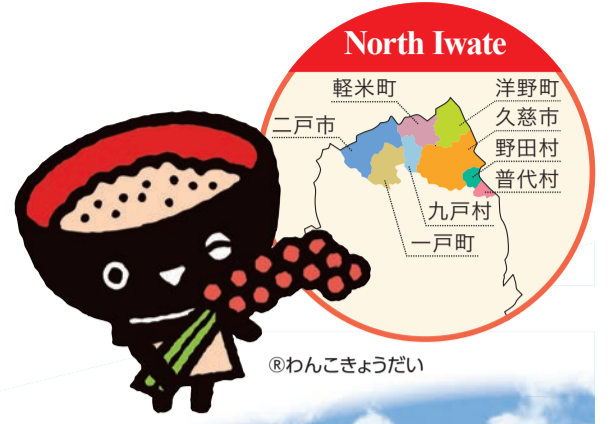


北いわて 2016 復興最前線



復興レポート



北 いわての 新しい 風景

北限の海女フェスティバルで
浜がさらに元気に 久慈市

潮風トレイル
北三陸に延びる 普代村

公営住宅完成間近 野田村

いわて国体に向け準備着々 洋野町

洋野エモーション
感動!おもてなし活動 洋野町

トンネルが
未来へ続く 久慈市

前へ。もつと前へ。

東日本大震災津波から5年、復興のための整備、工事は着実に進んでいます。よりよいまちをつくるために、地域に暮らす皆さんとともに。

道路の復興状況

三陸の大動脈を担う 三陸沿岸道路

三陸沿岸道路は青森から宮城までの三陸沿岸を走る、総延長359kmの自動車専用道路で、完成すれば、三陸の大動脈となります。このうち久慈地域では、「洋野階上道路」「久慈久慈道路」



野田IC予定地(①)

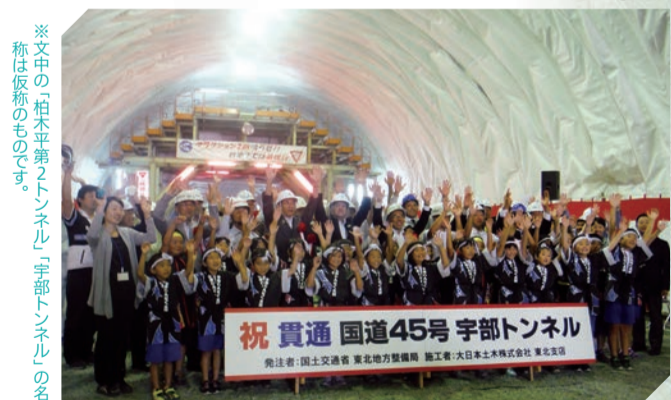
「野田久慈道路」「尾肝要普代道路」の4区間の道路の整備を行っています(右図の青枠部分における復興道路参照)。これらの道路は震災からの復興を後押しするだけでなく、人々の生活の質の向上にも貢献。三陸全体の活性化にもつながります。



柏木平第2トンネル貫通式の様子(②)

尾肝要普代道路 「柏木平第2トンネル」貫通

尾肝要普代道路で工事が進められていた「柏木平第2トンネル」が貫通。平成27年8月に貫通式が行われました。



宇部トンネル貫通式の様子(③)

野田久慈道路 「宇部トンネル」貫通

野田久慈道路で工事が進められていた「宇部トンネル」も同じく、平成27年8月に貫通式が行われました。宇部トンネルの工事では、近くの宇部小学校の子どもたちを対象とした「体験学習会」や宇部地区の住民による「大人の社会科見学」と題した現場見学会も開かれており、工事の進捗状況を肌で感じてもらう取り組みなども行われました。



地図 MAP

社会資本の復旧・復興の状況

【平成27年度完成、進行中の事業】

凡例

- ... 国が主体の事業
- ... 県が主体の事業
- ... 各市町村が主体の事業

※平成26年度までに完成済の事業については記載していません。

内陸と沿岸を結ぶ 災害に強い復興支援道路

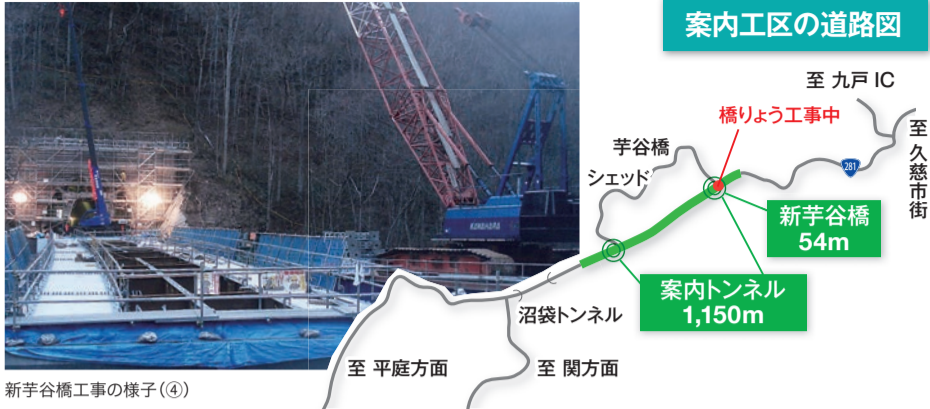
内陸部から三陸沿岸地域へアクセスする道路である「国道281号」は、東日本大震災津波時に救援物資の輸送に使われた重要路線であり、久慈広域エリアの復興支援道路として位置づけられています。しかし、この路線の一部は急カーブが連続し、円滑な交通の支障となっており、特に積雪・凍結時においては交通の難所となっています。また、防災点検では、道路脇の複数の斜面が要対策と判定されるなど危険な状態であることが判明しています。久慈市山形町川井地区では、平成24年度から「案内工区(事業延長2100M)」の整備が進んでおり、この整備により、急カーブ等を解消し、走行条件を改善させ、物流輸送の効率化や緊急輸送の強化、救急搬送時間の短縮等、道路利用者の安全安心の確保を目指し、災害に

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平27情復、第1203号) この地図を第三者が複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。

強い道路ネットワークの構築を図っています。

一般国道281号の「案内トンネル」が貫通

案内工区で工事が進められていた「案内トンネル」が貫通。平成27年



新芋谷橋工事の様子(④)

8月に貫通式が行われました。現在は、久慈溪流沿いのトンネル出口部(久慈側)で、橋りょう等の工事が進んでいます。案内工区全線の開通は平成29年度を予定しています。

農地・水産関係施設の整備

宇部川地区ほ場整備

県では防潮堤の復旧・整備と併せて、被害を受けた農地を整備していきます。

野田村では、平成27年8月に完成した野田農地海岸防潮堤(延長約700m)と併せて、宇部川地区(久慈市宇部町と野田村野田)で、津波被災約15ヘクタールを含む約80ヘクタールでほ場整備を進めてきました。地域の農業を担う農事組合法人宇部川ファームが設立され、平成27年5月には、本格的な営農を開始。水田は区画が大きくなったので、大型農業機械を導入し作業効率を向上。現在は、防潮堤の陸間操作を遠隔化する準備、ライスセンター(乾燥施設)の整備が進んでいます。



整備された宇部川地区ほ場(奥に見えるのが野田農地海岸防潮堤)

大川目第2ふ化場が完成

東日本大震災津波では、多くのふ化場が被災しました。減少してしまったサケ稚魚の放流数を、県北地域全体で震災前の水準まで回復させようと、久慈市の久慈川漁協が、大川目第2ふ化場を新設。平成27年9月に竣工式を行い、10月から本格稼働を始めました。1シーズンの稚魚の生産尾数は600万尾。今年、初めての放流が行われています。

大川目第2ふ化場の完成によって県北地域のサケ稚魚放流数が、震災前と同数(102万尾)までに回復する見込み。回帰率向上に期待が寄せられています。



大川目第2ふ化場

被災者支援の取組

「こころの相談室」を野田村で開催

岩手医科大学は県の委託を受けて「岩手県こころのケアセンター」を設

置。県内4カ所に地域センターを設け、被災者のこころに寄り添う活動を平成24年から続けています。

被災者の生活再建に向けた相談を実施

野田村で「こころの健康相談センター」を開催。訪れた人の体調やこころのケアを行い、支援制度や関係機関を紹介するなどの支援を行っています。また久慈保健所の主導で、ケアに関わる専門スタッフを集めた「久慈地域メンタルヘルスサポートネットワーク連絡会」を毎月開催。地域全

県では、被災者の「一日も早い生活再建に向けて、県久慈地区合同庁舎内に「久慈地区被災者相談支援センター」を平成23年7月に開設し、被災者の様々な相談・問い合わせに対応しています。



久慈地域こころの健康相談センター

センターでは、相談員のほか、弁護士、司法書士、ファイナンシャル・プランナーなどの専門家による相談も行っており、「相続の手続について知りたい」、「契約書の内容がよくわからない」、「住宅の再建に当たり生活費のやりくりが不安」など、ご相談の内容に応じ、無料でご利用いただけます。震災から5年となり、久慈地域では災害公営住宅等の整備が進んでおり、生活再建に向けた動きが本格化しています。「どこに相談したらいいのかわからない」、「こんなことで困っている」など、どのようなことでも結構ですので、センターへお気軽にお問い合わせください。【連絡先(通話料無料) 0120-9341755】

インタビュー

前へ。もっと前へ!

三陸沿岸道路の工事状況を「見える化」



国土交通省東北地方整備局 三陸国道事務所久慈維持出張所 建設監督官 金濱 巨晃さん

総延長359kmにおよぶ三陸沿岸道路。このうち岩手県内は213kmを占め、これまで65kmが開通。残る7割の区間で事業を進めています(H27.12現在)。

事業を進めるにあたっては、地元の皆さんを招いて見学会を開いたり、ホームページで情報発信したり、事業の「見える化」にも力を入れています。見学会ではさまざまな質問も飛びだして、多くの方々に関心を持たれていると実感しています。

余談ですが、宇部トンネルの工事中にキャラメルが溶けたような物体(琥珀の原石!?)が出てきて驚きました。今後、皆さんにもお披露目したいと考えています。

三陸の復興工事はいかに早く、高耐久のインフラを造り上げるかが課題。工事車両や騒音等ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

インタビュー

前へ。もっと前へ!

回帰率アップのために、安定した稚魚放流を



久慈川漁業協同組合 組合長 繁名 正人さん

震災では県内の28のふ化場のうち、23カ所が被災。県北では、洋野町の有家川、高家川ふ化場、野田村の下安家ふ化場、普代村の普代川ふ化場が、大規模な被害を受けました。

サケは食卓には欠かせない魚。サケを安定供給するには放流事業が欠かせません。

採卵して受精させた卵から、ふ化した稚魚を、平均で1.3g(体長5cm)ぐらいになるまでに育て、放流するのがふ化場の仕事です。久慈川にサケが戻ってくるのは、10月下旬~2月頃。しかし、最近は回帰率が落ちてきています。

サケの放流事業には、質のいい水が大量に必要です。上流に山がある久慈川は良質な水に恵まれているので、この水環境を守って行くことが大事。回帰率を上げるためにも、元気な稚魚を育てること。さらに早期から後期まで期間を通してサケの安定回帰をうながすよう、放流も安定させることが目標です。

インタビュー

前へ。もっと前へ!

長期的なこころのケアが必要です



岩手医科大学医学部 災害・地域精神医学講座 特命教授 大塚 耕太郎さん

被災者にとって、震災で受けたストレスは今もずっと続いています。ただ5年経って、自立を促される不安、経済的な問題など、ひとりひとりのストレスの質が違ってきているように感じます。

以前は、久慈地域は県内でも自殺率が高かったエリア。私は平成13年から、この問題に取り組んでいたこともあり、震災直後から心身の健康を守る活動を行ってきました。忘れがちですが、行政側のスタッフも被災者であり、震災によるストレスを抱えています。

こころのケアは時間をかけて相手にじっくり寄り添うことが大切です。寄り添いの場が、被災した人たちの「語る場」となること。そして長期的に地域全体で支えていく必要があります。

内陸の人には、震災は遠くなりつつあるかもしれませんが、被災地の人にとってはまだまだ進行形。風化させてはいけないというメッセージを現場からあげることがあると思っています。

市町村復興レポート

[2015年の動き]

久慈市

人口 36,710人
平成28年1月末現在

小袖海女センター 本格オープン



素潜り実演の見学は1階で受け付け

震災で全壊した久慈市宇部町・小袖漁港に「小袖海女センター」が再建され、平成27年4月に本格営業が始まりました。

1階はフノリやコブなどの地元海産物が並ぶ産直と、クッキーなどの土産物の物販スペース、2階は海女の文化や歴史を学べる展示コーナー。3階には軽食コーナー「海女カフェ」があり、いちご煮やまめぶ汁などの軽食を販売。屋上の展望台からは海が一望でき、夏季には海女による素潜り実演を見ることができま

ます。拠点となる施設の完成で、国内は

ここに注目!

ケルンの中央にある穴は、希望の光を生み出す不思議な穴。東日本大震災で地震が発生した時刻、3月11日の14時46分になると、この穴を太陽の光が貫通。1年に1回だけ、その光が鐘を輝かせる仕組みになっています。



ここに注目!

東日本大震災津波のモニュメントが完成
久慈市のNPO法人岩手・久慈ケルンの会が建立を目指してきたモニュメント「ケルン・鎮魂の鐘と光」が完成。平成27年5月に除幕式が行われました。場所は久慈港に近い

もとより台湾をはじめとするアジア圏から観光客を獲得しようと、受け入れに向けた取り組みが始まっています。

J-C公園内です。

ケルンとは登山の際の道しるべになるようにと、山頂や登山道などに石を円すい状に積み上げたものとのこと。モニュメントはこの「ケルン」をモチーフに、久慈市内で発生した震災のがれきの上に、市民が持ち寄った石を積み上げて造りました。石積みの高さは、東日本大震災で久慈市を襲った津波の高さ(海抜14・5m)と同じ。この場所に立つと、津波の高さを体感できます。

9月には、一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」が巡礼地に選定。同じような悲劇を繰り返さないよう、津波の記憶を後世に伝えていきます。

「株」十文字チキンカンパニー 久慈工場大規模増設工事着工

鶏肉食肉品製造業大手の「株」十文字チキンカンパニー(本社・三戸市)は、国の復興支援事業を活用して、現在久慈市小久慈町にある久慈工場を大幅に増設することになりました。

増設が完了すれば、一日当たりの食鳥処理能力は、9万羽に。単独の工場としては国内最大規模の処理能力を誇ることとなります。

また、稼働開始までに新たに86人の正社員を雇用する計画で、将来的には500人規模の生産体制になる



「(株)十文字チキンカンパニー久慈工場」完成予想図

と見込まれています。稼働開始は平成29年11月を予定。岩手は鹿兒島・宮崎に続く、チキン生産県です。鶏肉に対する需要は安定しており、大規模増設によって、久慈地域の雇用創出と経済の活性化が期待されています。

今年4月下旬に待望の復活 オープン。「もぐらんぴあ」

震災で全壊し、再建工事が行われていた日本で唯一の地下水族館「もぐらんぴあ」は、管理棟が完成。現在、4月23日予定のオープンに向けて準備が進んでいます。

総事業費は約13億6000万円。

新しい管理棟は、従来の2階建てから5階建てに。産直施設、映像やグラフィック、クイズで津波などを学べる防災学習展示室、久慈湾を一望できる展望所などが備えられています。

また、新たに5mの大型水槽を追加し、アイナメ・ドンコ・ウニなど久慈近海の生き物の生態を再現します。「北限の海女」や「南部ダイバー」のショーなど、新しい趣向が取り入れられるほか、震災で生き残り、現在は八戸市の水産科学館「マリエン

野田村

人口 4,433人
平成28年1月末現在

城内地区高台団地 名称は「新町」に



「町」の姿が見えてきた高台団地

防災集団移転促進事業を進める野田村で、事業面積約6ヘクタールの「城内地区高台団地(74区画)」の造成工事が完了しました。元は山林だった場所を切り崩し、標高21〜15mで造成。災害公営住宅54戸、自力再建20戸の建設が予定される、野田村で最大規模の高台団地です。

新しい行政区の名称は、住民から募集したものを検討し「新町(しんまち)」に決定。平成27年4月には、村と移転者との分譲契約調印式が行われました。

災害公営住宅は、平成28年3月末までに完成。すべての公営住宅が完成してから、入居が始まる予定です。

自慢のホタテで地域を元気に! 岩手野田村「荒海ホタテ」

厳しい自然と共存しながら育まれる野田村のホタテは、市場では高い評価を受けているが、一般的には知られていないという課題がありました。こうした中、漁師や漁協などを中心として、野田村の水産物を多くの方々に選ばせる商品とすべく「荒海団」を結成。野田産ホタテを「荒海ホタテ」と命名し、漁師自らホタテのおいしさを伝える活動を行っています。

荒海ホタテは肉厚で濃厚な味が特徴。現在は首都圏の著名な料理人からも選ばれています。地元小中学生からの応援を受け、「荒海ホタテ」は着実にファンを増やしています。



荒海団から団旗を受け取った子どもたち

インタビュー

前へ。もっと前へ!

環境を逆手に取ったホタテ養殖



岩手野田村荒海団団長 外館 尚紀さん

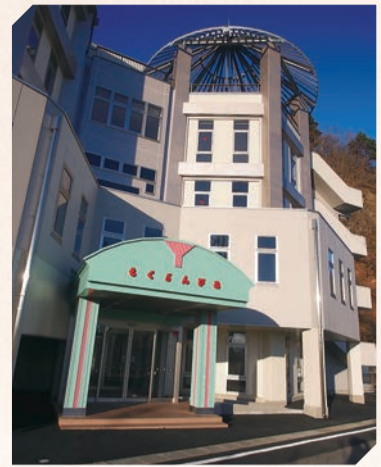
ホタテは一般的に波の静かな内湾で「耳吊り」で養殖します。でも外洋に開いた野田湾は波が強いので、耳吊りでは、荒い波にもまれてホタテが落下してしまいます。

野田の先達が編み出したネットやカゴに入れて育てる方法は、ホタテが自由に動いてストレスがかからない。荒い波にもまれて貝柱が発達するから、肉厚になる。逆境を逆手にとった「荒海ホタテ」は、だから身が甘くていいんですよ。

ただ、手間はかかる。成長に合わせてネットやカゴの入れ替えをしたり、付着する他の貝類を取り除いたり。そういう作業を沖合3kmの荒海の中でやらなければなりません。

「荒海団」の漁師は25人。もっと「荒海ホタテ」を食べてもらいたいし、「荒海ワカメ」や最近始めた「荒海カキ」の養殖にも力を入れていきたいと思っています。

ト」に疎開しているウミガメの「カメ吉」も帰ってくる予定。久慈の観光の柱となる施設の復活に期待が寄せられています。



新もぐらんぴあ管理棟

洋野町

人口
17,785人
平成28年
1月末現在

洋野を元気にする
おもてなし活動
「洋野エモーション」



洋野エモーションの様子

JR八戸線の久慈〜八戸間で平成25年10月から運行しているレストラン列車「TOHOKU EMOTION」の乗客を、手や大漁旗を振ってもてなす「洋野エモーション」の活動が広がりを見せています。
被災した八戸線の早期復旧に尽

前へ。もっと前へ!

久慈と海女の魅力を、どんどん発信していきたい



北限の海女観光PR隊
藤織 ジュンさん(左)、根井 理帆さん(右)

舞台公演に訪れていた久慈で、公募ポスターを目にして、すぐ応募を決めました。

私は東京出身ですが、久慈には海も山もあって、本当に素晴らしい自然に恵まれていると思います。食べるものもおいしいし、人々もシャイだけど温かい人ばかり。最初は方言もわかりませんでした、いろいろな人と交流しているうちに聞き取れるようになりました。

地元の人にとっては当たり前のことでも、よそから来た人には新鮮なこともある。私はそんな視点で久慈の魅力を発信していきたいですね。(藤織さん)

私は地元、久慈の出身です。「ママがあまちゃんになったら格好いい!」と子どもに背中を押されて応募しました。

素潜りは初めて。実際に潜ってみると、ドラマで観る以上の美しい世界が広がっているんですよ。ウニはもちろん、カニやウミウシなども歩いていて、まさに竜宮城みたいなんです。上からのぞいて見る海とは全く違う海に会えるのも海女の魅力。これからも海女という職業のこと、久慈の文化など、伝えていきたいと思っています。(根井さん)

オーシャン・ビュー・スタジアムリニューアル

希望郷いわて国体軟式野球競技の会場となる「オーシャン・ビュー・スタジアム」の大規模改修工事が完了。グラウンドや管理棟の改修、LED電光掲示板などの新設を行い、平成27年5月から一般の使用を開始しました。ブルペンが広くなり控室が増えるなど、選手の使いやすさが向上。電光掲示板には選手名や球速が表示されるようになり、観客の楽しみも増えました。

このスタジアムは、約4000人を収容でき、高校野球などさまざまな公式大会が開催されています。



打球が見やすくなった黒い電光掲示板

普代村

人口
2,858人
平成28年
1月末現在

新しい「久慈消防署 普代分署」完成

久慈消防署 新普代分署が完成し、平成27年7月に落成式が行われました。



災害時には周辺住民40名ほどの避難スペースとしても活用できる

津波浸水想定区域内にあった旧分署の場所から約1km離れた浸水想定区域外の安全な場所に移転。鉄骨造2階建てで、1階には出動準備室と仮眠室、消防車両等6台の車庫。2階には事務室と、水門の遠隔操作ができる監視システム室を整備。いずれも十分なスペースを確保し、迅速な出動に対応できる環境が整いました。津波警報などの発令時には、この新分署の2階から普代水門の開閉操作を行います。また、今後は太田名部防波堤の遠隔操作も可能になります。

「野田村〜普代村北部間ルート」には、「十府ヶ浦」など三陸復興国立公園の自然が楽しめるポイントや、「野田玉川」山跡地など地質的に貴重であったり、「普代水門」など震災の様子を伝えたりするジオポイントなどが含まれており、変化に富んだトレッキングが楽しめます。平成28年度には、田野畑村方面に延びる普代村の南側のルートも整備される予定で、開通すれば、村内の全ルートが開通します。



タレントのなすびさんを招いて行われた普代村コースの開通記念イベント

全カインタビュー

前へ。もっと前へ!

継続こそ、地域を元気にする原動力
洋野エモーションの仕掛け人



洋野町復興支援員
宮本 慶子さん (写真下段右から2人目)

TOHOKU EMOTIONが運行開始して以来、洋野エモーションの活動日数は400日以上。延べ1万6千人以上のお客様を大漁旗でお出迎えして来ました。この活動のことを「洋野エモーション」と名付け、「エモる」(エモーションに参加することの意)という動詞も仲間うちで定着してきています。

列車が通過する間のわずか数分の交流ですが、私たちが手を振り、お客様が振り返るという双方向のコミュニケーションが大きな感動を生みます。最近では、乗車したお客様ともSNSでつながり、新しいエモ仲間が増えています。それが、地元の皆さんの自信にもつながります。だから続けることが大事。

気負わず、「ちょっと行って見てみようかな」くらいの気持ちで大丈夫なので、まだエモったことのない方、ぜひエモりに来てみてくださいね。

全カインタビュー

前へ。もっと前へ!

住民の協力で、ルート作成と整備が完成
みちのく潮風トレイル「普代村北部区間」開通



普代村農林商工課
商工観光対策室
森田 陽さん

普代村北部区間のルート作成には、地域の有志の方が大活躍しました。自分たちが育ってきた地域だからこそ、こだわりが強いんでしょう。歩いてもらいたいポイントがあちこちあって、ルート会議はワクワクした雰囲気でした。草刈り整備にも、ボランティアや復興道路の工事関係者など、みなさんが協力してくれました。

普代村北部区間の特徴は、見事なまでに海と山を行ったり来たりすること。ダイナミックな自然を満喫できます。開通イベントに招いたタレントのなすびさんもそう感じていたようで、どちらかといえば健脚向きですね。

開通以来、リュックを背負って歩いている人を見かけるようになりました。

街なかを通る寄り道のコースでは、休憩がてら商店街の食堂などに立ち寄り、特産の昆布商品などの美味しいものを食べて、普代村の食や文化にも触れてほしいです。

水産業の再開

生産基盤等

被災状況

漁港	漁船	養殖施設	定置網	魚市場	製氷貯水施設	ふ化場
災害査定141箇所	被災1,580隻	被災2,100台	被災63ヶ統	被災5市場	被災6施設	被災4施設

復旧の進捗状況

項目	進捗率	計画/実績
漁港(海岸を含む)	97%	計画: 141箇所/実績: 137箇所
漁場	100%	計画: 12箇所/実績: 12箇所
漁船	100%	計画: 1,519隻/実績: 1,519隻
養殖施設	100%	計画: 1,524台/実績: 1,524台
定置網	100%	計画: 59ヶ統/実績: 59ヶ統
魚市場	100%	計画: 5市場/実績: 5市場
製氷貯水施設	100%	計画: 6施設/実績: 6施設
ふ化場	100%	計画: 4施設/実績: 4施設

水産物

被災前の状況

養殖ワカメ	養殖コンブ	養殖ホタテ	サケ稚魚放流	ウニ種苗生産
3,400t	1,700t	280t	102百万匹	250万個

現在の対応状況

項目	進捗率	計画/実績
養殖ワカメ	93%	計画: 3,400t/実績: 3,151t
養殖コンブ	69%	計画: 1,700t/実績: 1,166t
養殖ホタテ	101%	計画: 130t/実績: 131t
サケ稚魚放流	計画尾数は達成する見込み	計画: 102百万尾/稚魚生産中
ウニ種苗放流	108%	計画: 250万個/実績: 269万個
アワビ種苗放流	100%	計画: 131万個/実績: 131万個

ACTION

東日本大震災津波からの復興に向けた取組状況

平成27年12月末現在の状況

安全・安心なまちづくり

災害公営住宅の建設

項目	進捗率	計画/実績
洋野町	100%	計画: 4戸/実績: 4戸
久慈市	100%	計画: 11戸/実績: 11戸
野田村	46%	計画: 100戸/実績: 46戸

自立再建住宅の宅地造成・宅地嵩上 ※区画整理事業を除く

項目	進捗率	計画/実績
洋野町	20%	計画: 15戸/実績: 3戸
久慈市	100%	計画: 15戸/実績: 15戸
野田村	100%	計画: 53戸/実績: 53戸

二戸地域のトピックス

希望郷いわて国体冬季大会 スケート競技会開催



大活躍の村竹選手

冬季大会と本大会が同一県で開催される完全国体が、21年ぶりに本県で、平成28年1月27日に開幕しました。二戸地域では、平成28年1月27日(水)～28日(木)に、岩手県立県北青少年の家スケート場において、シヨートトラック競技が行われ、初日、成年男子1000mで村竹啓恒選手が県勢第1号の優勝を飾りました。同種目での優勝も県勢初で、会場が大いに沸きました。

おもてなしブースでは、久慈まめ汁を300食、翌日はひつつみ400食を振るまい、おいしそうな匂いと、温かい湯気に誘われるように両日とも完食となり、他県の選手や関係者の方々にも好評でした。また、会場では、東日本大震災津波の復興写真館コーナーがあり、多くの人々が足を止めていました。選手たちの反応や会場の雰囲気は、秋の本体に向けて次なるもてなしのヒントになりました。

2月7日(日)には、同会場で、デ

モンストレーションスポーツの「カーリング」競技会(女子)と体験会も実施され、オリンピック出場の苦米地美智子さんと楽しみました。迫力ある国体競技を生で見た子ども達の中から、次世代の選手が生まれるかもしれません。



まめ汁などお振舞



体の芯から温まるお振舞

体験を通して地域交流活性化 「山・川・ゆたかカシオペア体験交流くらぶ」31メニューが好評

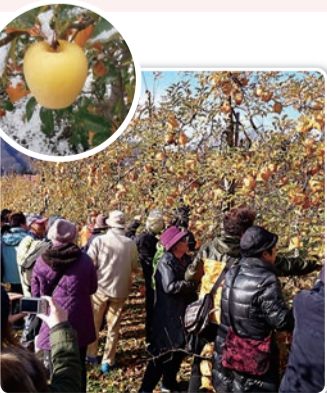


個性的な体験交流メニューがいっぱい



新おもてなし課長任命式

まちおこしなどに携わる地域住民らが課長を務める「カシオペア連邦局おもてなし課」が平成25年に発足し、翌年から、二戸地域の資源を生かした体験交流プログラム「山・川・ゆたかカシオペア体験交流くらぶ」事業がスタート。平成27年度は課長の推薦を受けた課長代理が新たにインストラクターとなり、計31メニューで展開。3月までの実施で、2千人超の参加者を見込んでいます。紹介リーフレットやガイドブックは、近隣市町村の小学校にも配布、地元出身の大学生による事業PR動画の配信も始め、広報内容も充実させています。収穫体験や自然と触れ合う体験など、各課長らの持ち味を生かした多彩なメニュー内容はもち



「冬恋」に夢中の参加者

ろん、地元の人たちの方言での交流や知られざる魅力に触れ、地元をはじめ八戸市や盛岡市などからのリピーターも増えています。

28年1月には、3年目に向けて、課長代理18名が、おもてなし課長に昇格。28年度版ガイドブックも完成し、体験を通して二戸地域の魅力を伝え、新たな二戸地域のファンを増やしていきます。

「カシオペア連邦果物の里」収穫体験でファン拡大へ

リピート力が高く、高価格で販売でき、地域限定で誘客にもつながるブランド果物。二戸地域では収穫体験ができる農園が増えてきたこともあり、3年前から情報発信事業をスタートさせ、ブルーベリーの「カシオペアブルー」、さくらんぼの「夏恋」、りんごの「冬恋」などブランド果物を活用した誘客対策に取り組んできました。特にいま力を入れているのは、「ブランドりんご」の「冬恋」。

平成27年11月28日(土)、29日(日)には「冬恋の収穫体験」を実施しました。袋をかけて栽培される「冬恋」を取り出すと、美しい黄色い実が現れ参加者の歓声があがっていました。

12月には伊勢丹新宿店、全農いわてと連携し、首都圏で試食販売や、県北広域振興局トップセールスを行うなど、ブランド果物のさらなる魅力発信に力を入れています。

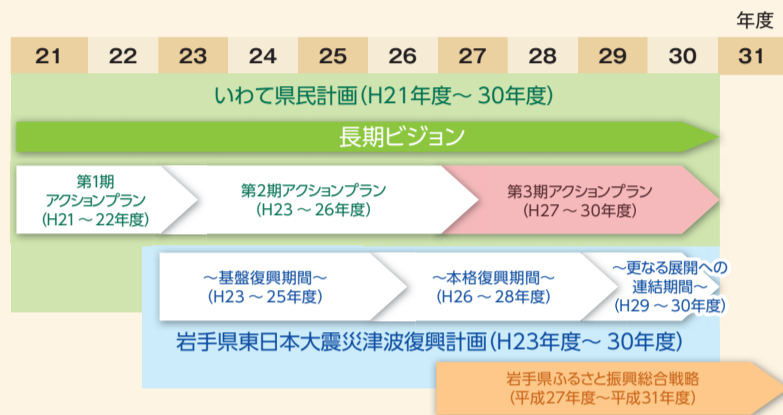
平成27年度
平成30年度

ゆたかさ・つながり・ひと〜いっしょに育む「希望郷いわて」〜 始動中!「いわて県民計画」 県北広域振興圏 「第3期アクションプラン」の概要

県北広域圏の目指す将来像
(長期ビジョン H21～30年度)
培われた知恵・文化、多様な資源・技術を生かし、八戸圏域等との交流・連携を深めながら、持続的に発展する活力みなぎる地域



「第3期アクションプラン」は、東日本大震災津波からの復興に向け、平成23年8月に策定した「**岩手県東日本大震災津波復興計画**」と軌を一にしながら推進するとともに、人口減少に歯止めをかけ、ふるさとを振興するため平成27年10月に策定した「**岩手県ふるさと振興総合戦略**」を包含し、一体的に推進します。



「第2期アクションプラン」(平成23～26年度)の成果と課題

(基本方向) I 安全・安心に暮らせるまちづくり	
成果 ① 震災により被災した県管理の公共土木施設等の復旧・整備	課題 ① 復興関連道路等の一部でやや遅れ
(基本方向) II 地域資源を生かした活力ある産業づくり	
成果 ① 園芸や畜産などの産地力の強化 ② 特用林産物の流通・販売体制の強化 ③ 漁業生産基盤の復旧と整備 ④ 広域的な観光情報の発信による誘客の促進 ⑤ 被災事業者の本格操業に向けた支援 ⑥ 北いわての食材の認知度向上 ⑦ 企業の経営課題に応じた支援 ⑧ 若年者等の就業支援	課題 ① 農林水産業従事者の減少・高齢化 ② 「あまちゃん」などによる認知度向上を生かした誘客の促進 ③ 食産業やものづくり産業の経営課題解決に取り組む人材の不足 ④ 若年者の地元就職が低い
(基本方向) III 健康で住みよい地域づくり	
成果 ① 被災住民へのこころと体の健康支援や被災した診療所の再建 ② 保健・医療と介護・福祉との連携の推進 ③ 高齢者の権利擁護など的高齢者支援 ④ 青森県境産業廃棄物不法投棄事案への対応	課題 ① 自殺死亡率、脳血管疾患や心疾患による死亡率が高い ② 高齢者や生活困窮者に対する新たな支援制度に対応した体制の構築

「第3期アクションプラン」(平成27～30年度)の重点施策・指標

県北広域圏の第3期アクションプランは、長期ビジョンに示す「目指す将来像」の実現に向け、他圏域と連携しながら、震災からの本格復興と圏域の地域特性を生かした振興を進め、人口の流出防止・定着の促進を図るため、次のI～IIIを基本方向とし、11の重点施策を推進していきます。

基本方向 I 安全・安心に暮らせるまちづくり

- 東日本大震災津波により被災した施設の復旧・整備を推進するとともに、ハード・ソフト両面から地震津波等への対策を強化します。
- 物流の効率化、圏域内外への交流拡大、生産性の向上を支える社会基盤の整備を推進します。

重点施策	指標([現状値 ²⁶ (H26)⇒計画目標値 ³⁰ (H30)])
No.1 防災対策の推進	◎東日本大震災津波により被災した公共土木施設の復旧箇所数の割合 [²⁶ : 87.4% ⇒ ³⁰ : 100.0%]
No.2 地域経済や暮らしを支える社会基盤の整備	◎ ⁰¹ 復興支援道路及び ⁰² 復興関連道路の供用率 [²⁶ : 47.0% ⇒ ³⁰ : 100.0%]

基本方向 II 地域資源を生かした活力ある産業づくり

- 農林水産業における地域の中核となる経営体の育成や担い手の確保・育成を図るとともに、地域特性を生かした農林水産物の生産拡大や6次産業化などによる高付加価値化の取組を進めます。
- 県北圏域の豊かな自然、伝統文化、農山漁村の暮らしを実感できる教育旅行などの体験・交流型観光や、生産・加工・流通・販売の各事業者が連携し地域の特徴ある食材を生かす食産業を推進します。
- 産学官が連携した企業支援を展開し、県北圏域のアパレルなど特徴的な産業の認知度向上や、ものづくりを担う人材育成を進めるとともに、地域ぐるみのキャリア教育に取り組み、若者の地元就職を促進します。

重点施策	指標([現状値 ²⁶ (H26)⇒計画目標値 ³⁰ (H30)])
No.3 農林水産業の経営体の育成と産地形成(1) 農業	◎農畜産物の販売額 [²⁶ : 735 億円 ⇒ ³⁰ : 747 億円]
(2) 林業	◎①木材生産額(推計) [²⁶ : 2,464 百万円 ⇒ ²⁹ : 2,715 百万円] ◎②主要特用林産物生産額(木炭、乾しいたけ、生漆)(推計) [²⁶ : 698 百万円 ⇒ ³⁰ : 930 百万円]
(3) 水産業	◎漁業生産額 [²⁶ : 49 億円 ⇒ ³⁰ : 57 億円]
No.4 体験・交流型観光の展開	◎観光客入込数(延べ人数) [²⁶ : 321 万人 ⇒ ³⁰ : 311 万人]
No.5 地域資源を生かした食産業の振興	◎食料品製造出荷額 [²⁶ : 679 億円 ⇒ ²⁹ : 717 億円]
No.6 ものづくり産業の振興	◎①ものづくり関連分野(輸送用機械、半導体製造装置、電子部品・ ⁰³ デバイス等)の製造品出荷額 [²⁶ : 227 億円 ⇒ ²⁹ : 238 億円] ◎②繊維工業の製造品出荷額 [²⁶ : 38 億円 ⇒ ²⁹ : 38 億円]
No.7 雇用機会の確保と若者の地元定着	◎県北圏域高卒者の管内就職率 [²⁶ : 36.2% ⇒ ³⁰ : 40.0%]

基本方向 III 健康で住みよい地域づくり

- 東日本大震災津波で被災した方々それぞれの状況に応じた支援を行うとともに、保健・医療と介護・福祉の連携を図り、子どもから高齢者まで誰でも、病気や障がい等の有無に関わらず安心して健やかに暮らせる環境づくりを推進します。
- 豊かな自然や環境と共生しながら、住み良いまちの形成に向けた生活環境の整備を図るとともに、若者や女性等の活躍を支援し、地域コミュニティの活性化を推進します。

重点施策	指標([現状値 ²⁶ (H26)⇒計画目標値 ³⁰ (H30)])
No.8 地域における医療と健康づくりの推進	◎①自殺死亡率(人口10万人当たり) [²⁶ : 37.3 ⇒ ²⁹ : 33.5] ◎②県立病院救急患者総数のうち当日帰宅措置患者の割合 [²⁶ : 82.4% ⇒ ³⁰ : 81.2%] ◎③脳血管疾患の ⁰⁴ 年齢調整死亡率(人口10万人当たり)(男) [²⁶ : 56.6 ⇒ ²⁹ : 53.0] (女) [²⁶ : 31.8 ⇒ ²⁹ : 30.6]
No.9 地域で支えあう福祉の推進	◎①居宅介護(地域密着型)サービス利用割合 [²⁶ : 57.3% ⇒ ³⁰ : 66%] ◎② ⁰⁵ グループホームの利用者数(累計) [²⁶ : 219 人 ⇒ ³⁰ : 270 人] ◎③「いわて子育て応援の店」協賛店舗数(累計) [²⁶ : 149 店舗 ⇒ ³⁰ : 165 店舗]
No.10 良好な環境の保全	◎① ⁰⁶ 公共用水域の ⁰⁷ BOD等の環境基準達成率 [²⁶ : 100% ⇒ ³⁰ : 100%] ◎②住民一人1日当たりのごみ排出量 [²⁶ : 869 g / 日 ⇒ ²⁹ : 833 g / 日]
No.11 定住環境の整備と地域コミュニティの活性化	◎①通学路等における歩道設置延長(累計) [²⁶ : 1,514 m ⇒ ³⁰ : 3,854 m] ◎②元気なコミュニティ特選団体数(累計) [²⁶ : 37 団体 ⇒ ³⁰ : 49 団体]

※「◎」: 主たる指標

用語解説

01 復興支援道路

内陸部から三陸沿岸各都市にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路。県北圏域では、国道281号、国道340号、国道395号、主要地方道久慈岩線、主要地方道軽米九戸線、主要地方道戸呂町軽米線の6路線。

02 復興関連道路

三陸沿岸地域の防災拠点(役場、消防等)や医療拠点(二次・三次救急医療施設)へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路。県北圏域では、主要地方道軽米種市線、主要地方道野田山形線、主要地方道岩泉平井賀普代線、一般県道菅代小尾瀬線、一般県道角ノ浜玉川線、一般県道野田長内線、一般県道待浜夏井線の7路線。

03 デバイス

IC(集積回路)、ダイオード、トランジスタなど、何らかの特定機能を持った電子部品。

04 年齢調整死亡率

人口構成の異なる集団間での死亡率を比較するために、死亡率を一定の基準人口(昭和60年モデル人口)に当てはめて算出した指標。

05 グループホーム

障がい者(介護を必要としない方)が、自立した地域生活を営むことができるよう、専門スタッフによる家事などの日常生活援助を受けながら、少人数で共同生活をおくることのできる住居。介護サービスについては、事業所が自ら行う「介護サービス包括型」と外部の居宅介護事業所に委託する「外部サービス利用型」がある。

06 公共用水域

河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠、かんがい水路その他公共の用に供される水路をいう。

07 BOD等

BOD及びCODのことであり、BODはbiochemical oxygen demand(生物化学的酸素要求量)の略称で、河川水や排水中の汚れの程度を、CODはchemical oxygen demand(化学的酸素要求量)の略称で、湖沼や海水中の汚れの程度を示す指標である。



ご来県のみなさま、
復興へのご支援ありがとうございます

広げよう 感動。伝えよう 感謝。



2016
希望郷

第71回国民体育大会

いわて国体

2016
希望郷

第16回全国障害者スポーツ大会

いわて大会

平成28年10月1日(土)～11日(火)
【水泳競技は平成28年9月4日(日)～11日(日)】

平成28年10月22日(土)～24日(月)

感動と感謝。人と人の輪を広げ、県民一丸となって大会を成功させましょう。

平成28年1月～2月にかけて開催された希望郷いわて国体 冬季大会は、全国の皆さまと各地域の皆さまのご協力により、素晴らしい大会になりました。10月から始まる希望郷いわて国体（水泳競技は9/4～9/11開催）・希望郷いわて大会でも、復旧・復興に多くの支援をいただいた全国の皆さまに感謝の気持ちを伝えるために、地域で力を合わせましょう。

希望郷いわて国体 アスリートインタビュー

応援よろしくお願いします！

軟式野球



もりこ ゆうすけ
森子 勇介さん(26歳)
(株)阿部繁孝商店

ポジションはショート。県野球協会のベストナイン(2015年)。花巻東高校では、菊池雄星投手の2年先輩。

高校卒業後、とにかく野球を続けたくて社会人チームのある会社に入社。営業部で働きながら、仕事の後と土日に練習。野球一色の毎日です。

国体には4回出場。いわて国体に出場できれば5回目ですが、やっぱり岩手での国体となると力が入ります。地元開催の国体に出場できるチャンスは人生で一度きり。家族や職場、復興を支えてくださった方々のおかげで野球ができることに感謝して、自分の持ち味の守備をさらに確実にして、試合に望みたいです。目標は優勝！出身地の普代村で試合ができれば最高ですね。



剣道



なかむら ゆうこ
中村 優子さん(39歳)
陸上自衛隊岩手駐屯地

小5から剣道を始め、現在は六段。得意技は168cmの長身からくりだす「面」。いわて国体剣道強化選手。

国体の成年女子剣道は、5人ではなく「先鋒」「中堅」「大将」の3人制。「中堅」は31歳以上40歳未満が対象で、私は「中堅」では最年長。長期戦を戦い抜くため、構えを中段から上段に変えるなど、戦い方を変える工夫をしています。

昨年の二戸市でのリハーサル大会では地元応援団のパワーを実感しました。応援団からエネルギーをいただいて、一つになって戦った感じです。地元開催のプレッシャーはありますが、あとは練習の成果を出すだけ。最後まであきらめずに戦う姿をみなさんにお見せしたいし、見ていただきたいと思います。



正式競技



競技	種別	会場地	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11
			土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
柔道	全種別	久慈市								●	●	●	
剣道	全種別	二戸市								●	●	●	
なぎなた	成年女子 少年女子	一戸町		●	●	●							
軟式野球	成年男子	洋野町		●	●	●	●						
		野田村		●	●		●						
		軽米町		●	●	●							
		普代村		●									
		九戸村		●									
		久慈市											

デモンストレーションスポーツ

- 8/7 ウォークラリー 野田村 村内特設会場
- 9/4 サーフィン 洋野町 種市海浜公園
- 9/25 パークゴルフ 洋野町 大野パークゴルフ場
- 10/9 ターゲット・バードゴルフ 一戸町 一戸町ターゲット・バードゴルフ場
- 障がい者スポーツ大会(オープン競技)
- 10/23 バタック 一戸町 一戸町総合運動公園

岩手県 県北広域振興局全世帯配布広報誌 (平成28年3月発行)

【編集・発行】県北広域振興局経営企画部 〒028-8042 岩手県久慈市八日町1-1
TEL:0194-53-4981代 FAX:0194-53-1720 E-mail:BK0001@pref.iwate.jp

